

## 文学作品の誤った読み取りの修正に及ぼす 「事実確認」質問と「証拠指摘」質問の有効性

立木 徹\*・伏見 陽児\*\*

### I 問題と目的

文学作品の誤った読み取りとその修正について、いくつかの研究が報告されている。麻柄 (1994) は木下順二の『夕鶴』(同名の戯曲を児童向きに書き直したもの) を教材としてとり上げ、多くの大学生が「恩返し」的に読み取ることを明らかにした上で、文章中に示される事実を吟味させることによって、誤った読み取りを修正させた。

他方、立木・伏見 (2003) は、文章中の事実を確認できたとしても誤った読み取りが修正されないという事実を報告している。この研究について少し詳しく紹介する。

ここで取り上げられた作品は、『ごんぎつね』(新美南吉作) である。これは長い間にわたり小学校4年生国語の教科書に採用されてきた名作である。あらすじは次のようなものである。

村はずれに住むごんぎつねは、ひとりぼっちの小ぎつねで、村に出てきていたずらばかりしていた。ある日ごんは、兵十のしかけた網から魚を逃がしうなぎを盗む。そのうなぎは兵十が病気の母親に食べさせようとしたものであったことを、兵十の母親が亡くなった後で知り、いたずらしたことを後悔する。そして、その償いに栗や松たけなどをこっそりと兵十の家に持って行く。ごんの行為とは知らない兵十は、家に忍び込んだごんを鉄砲で撃つ。そのとき、はじめて栗を持ってきたのがごんだと兵十は知ったのだった。

最後の場面で、兵十は「ごん、お前だったのか、いつもくりをくれたのは」と語りかける。この場面で、立木・伏見 (2003) は、「兵十の母親にうなぎを食べさせられなかったこと」に対するごんの償いの気持ちや「ひとりぼっちになった同士、友達になりたい」というごんの気持ちが兵十に伝わったと考えるかどうかを大学生に尋ねた。すると、多くの大学生がごんの気持ちが兵十に伝わったと回答した。ごんがうなぎを盗んだために兵十の母親にそれを食べさせられなかった。確かにこのことをごんは後悔している。文章を読めば読者は容易にわかる。また、ごんがひとりぼっちであることも文章にはっきりと書かれている。しかし、そのことと兵十がそれを知ることができたかどうかということは別である。兵十がそれを知ることができなかったということは、ていねいに読めばわかるはずである。それにもかかわらず、このような誤った読み取りが生じたのである。

そこで、立木・伏見 (2003) は文章中の事実を確認させるための質問を行ない、「兵十はごんがひとりぼっちであることを知らない」「兵十は、いわしを投げ込んだのがごんであ

---

\* 茨城キリスト教大学

\*\* 千葉大学

ることを知らない」等々の事実を強く意識させることが、誤った読み取りを修正させるかどうか調べた。驚くべきことに、事実を確認できたとしても誤った読み取りが修正されるどころか、むしろ誤った読み取りが強められるという結果が得られたのである。麻柄の行なった実験の結果と異なり、文章中の事実確認によっては誤った読み取りが修正されなかった。この点について、立木・伏見（2003）は次のように考察している。

麻柄が扱った『夕鶴』の読み取りの場合、読者は恩返しスキーマで読み取っているが、恩返しとして読み取りたいという強い願望を持っているわけではない。一方『ごんぎつね』の場合、ごんの気持ちが兵十に伝わってほしいと思う気持ちが読者には非常に強い。事実を提示するという同じ修正方法であっても、強い「願望」があったため、その効果がなかったばかりか、繰り返し読むことでむしろ多くの者はごんの気持ちが伝わったと考えるようになってしまったのではなかろうか。

では、誤った読み取りを修正するためにはどのような方法があるのだろうか。本研究では、前実験での文章中の事実の吟味が不十分であったために、読み誤りの修正が行なわれなかったと考え、新たな修正方法の検討を行なうこととした。

## Ⅱ 調査 1

### 1. 目的

ごんのいたずらのために兵十は母親にうなぎを食べさせられなかった。このことに対して、いわしやくりを持って行って償いたいとごんは思っている。この気持ちが兵十に伝わったとする事実が、文章中にないことを確認させる回数をより多くする。事実確認をより強調することによって、誤った読み取りが改善されるかどうか検証する。

### 2. 方法

#### (1) 被験者

被験者は茨城県内の私立 I 大学生生活科学部の学生 16 人である。このうち 15 人はこの教材を知っている。

#### (2) 調査の概要

『ごんぎつね』の本文が印刷されている冊子（読み物冊子：A4 判 3 頁）と、質問が記載されている冊子（質問冊子：表紙を除き A4 判 5 頁）を被験者に配付した。被験者は指示に従って課題に取り組んだ。調査の概略を図 1 に示す。

1 回通読（実験者が音読し、被験者は本文を目で追う）後に、『ごんぎつね』の本文を見ないでいくつかの質問に答える（1 回目）。ついで、本文を見ながら再度質問に答える（2 回目）というものであった。最後に各自がおこなった回答を振り返っての感想を求めた。

#### (3) 質問内容

質問冊子の内容を表 1、表 2 に示す。

第 1 頁目の 3 問は、ごんの気持ちがどの程度兵十に伝わったかを問う質問（「気持ちの伝わり」質問と呼ぶことにする）である。本文に叙述された事実からすると、これら 3 問はいずれも「伝わらなかった」と答えるのが適切である。<sup>1)</sup>

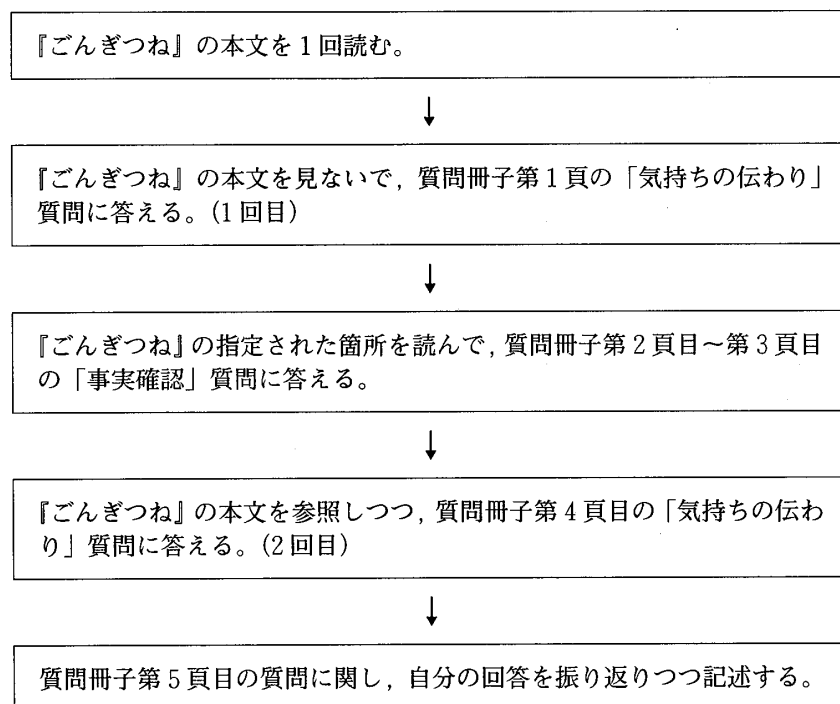


図1 調査1の概略

第2, 3頁目は、本文中の指示された箇所を見ながら回答する問いである。当該箇所を読むと正答がわかる問題（「事実確認」質問と呼ぶことにする）である。

第4頁目は第1頁目と同一の問い（「気持ちの伝わり」質問）である。

第5頁目では、2回おこなった「気持ちの伝わり」質問への回答について、1回目と2回目の回答の変化の有無、変わり方などについての感想を自由記述で求めた。

#### (4) 仮説

第2, 3頁目で誤った読み取りが否定されるはずの箇所を読むことにより、上記の誤った読み取りは修正されるだろう。したがって4頁目の「気持ちの伝わり」質問に対しては、第1頁目の場合よりも「ごんの気持ちは伝わらなかった」とする答が目立って多くなるであろう。

### 3. 結果

#### [1] 「気持ちの伝わり」質問の結果

第1頁目と第3頁目で尋ねた「気持ちの伝わり」質問の反応分布は表3の通りであった。「非常によく伝わった」に1点～「全く伝わらなかった」に6点を与えたときの平均点もあわせて示した。

1回目（第1頁目）の結果を見ると、問（2）で「伝わった」（非常に～やや伝わった）とする反応が多い。2回目（第3頁目）の結果を見ると、1回目に比べ反応はあまり改善されていない。問いごとに対応のある平均値の差の検定を行なった結果、いずれの問いに

表1 「気持ちの伝わり」質問の内容(調査1の質問冊子1項目)

本文3枚目3段7行目～8行目で「ごん、お前だったのか、いつも、くりをくれたのは」と兵十が言ったとき、ごんはうなずきました。この時(1)～(3)に示すごんの気持ちは、どのように兵十に伝わったでしょうか。次の①～⑥の中から、それぞれ自分の考えにもっとも近いものに○印をつけなさい。

- (1) 自分(ごん)のいたずらのために、兵十は母親にうなぎを食べさせられなかった。このことに対して、「いわしを持って行ってつぐないたい」という気持ち

①	②	③	④	⑤	⑥
非常によく 伝わった	かなり 伝わった	やや 伝わった	あまり 伝わらなかった	ほとんど 伝わらなかった	全く 伝わらなかった

- (2) 自分(ごん)のいたずらのために、兵十は母親にうなぎをたべさせられなかった。このことに対して、「くりを持って行ってつぐないたい」という気持ち。

①	②	③	④	⑤	⑥
非常によく 伝わった	かなり 伝わった	やや 伝わった	あまり 伝わらなかった	ほとんど 伝わらなかった	全く 伝わらなかった

- (3) 「兵十が自分と同じにひとりぼっちになってしまったなあ」と思っている気持ち。

①	②	③	④	⑤	⑥
非常によく 伝わった	かなり 伝わった	やや 伝わった	あまり 伝わらなかった	ほとんど 伝わらなかった	全く 伝わらなかった

においても有意な差が認められなかった。

1回目から2回目への6段階の評定に関し、「伝わらない」方向への変化があった者を「+」、評定の変わらなかった者を「=」、「伝わる」方向への変化を示した者を「-」として結果を見ると表4のようになる。問(1)、(2)では、「+」方向(伝わらない方向)に変化した者に比べ、「-」方向(伝わる方向)に変化した者の方が多い。サインテストの結果、いずれの質問においても有意差は見られなかった。仮説は支持されなかった。

## 〔2〕「事実確認」質問の結果

「事実確認」質問の結果を表5に示す。大半が正答できており、仮説が支持されなかったのは「事実確認」質問ができなかったからではないことがわかる。2頁目の「事実確認」質問では「ごんがひとりぼっちだったことを兵十は知ることができなかった」などと正しく答えつつ、3頁目の「気持ちの伝わり」質問では不適切な答をしてしまったといえる。

表2 「事実確認」質問の内容(調査1の質問冊子2~3項目)

- 『ごんぎつね』の本文を見ながら、問いに答えなさい。
- 問1: 2枚目2段7行目~20行目「その晩、ごんは~しなけりゃよかった」の文章を参照し、次の間について正しいと思う記号に○印をつけなさい。
- 1-1: 兵十が母親にうなぎを食べさせてあげられなかったのは自分のせいだと、ごんは後悔していましたか。
- ア. 後悔していた    イ. 後悔していなかった
- 1-2: 上述のごんの気持ちを、兵十は知ることができましたか。
- ア. 知ることができた    イ. 知ることができなかった
- 問2: 2枚目2段47行目~54行目「そして、兵十のうちの裏口から、うちの中へいわしを投げ込んで~」の文章を参照し、次の間について正しいと思う記号に○印をつけなさい。
- 2-1: いわしを兵十の家に投げ込んだ時、ごんは兵十に見つかりましたか。
- ア. 見つかった    イ. 見つからなかった
- 2-2: いわしを投げ込んだのは、「兵十が母親にうなぎを食べさせられなかった」ことに対する、ごんのつぐないの気持ちからですか。
- ア. つぐないの気持ちから    イ. つぐないの気持ちからではない
- 2-3: この時のごんの気持ちを、この時点で兵十は知ることができましたか。
- ア. 知ることができた    イ. 知ることができなかった
- 問3: 2枚目3段15行目~18行目「ごんは、これはしまったと思いました。~」の文章を参照し、次の問いについて正しいと思う記号に○印をつけなさい。
- 3-1: ごんはいわしを投げ込んだことを後悔していましたか。
- ア. 後悔していた    イ. 後悔していなかった
- 3-2: この時のごんの気持ちを、この時点で兵十は知ることができましたか。
- ア. 知ることができた    イ. 知ることができなかった
- 問4: 2枚目3段21行目~26行目「次の日も、その次の日も、ごんは~」の文章を参照し、次の問いについて正しいと思う記号に○印をつけなさい。
- 4-1: くりや松たけをごんが持っていったことを、この時点で兵十は知ることができましたか。
- ア. 知ることができた    イ. 知ることができなかった
- 4-2: くりや松たけを持っていったのは、ごんのつぐないの気持ちからですか。
- ア. つぐないの気持ちから    イ. つぐないの気持ちからではない
- 4-3: この時のごんの気持ちを、この時点で兵十は知ることができましたか。
- ア. 知ることができた    イ. 知ることができなかった
- 問5: 3枚目2段33行目~2段37行目「おれがくりや松たけを持って行ってやるのに、~」の文章を参照し、次の間について正しいと思う記号に○印をつけなさい。
- 5-1: 兵十がごんにお礼の気持ちを持っていなかったことに対し、ごんは「引き合わないなあ」と思っていましたか。
- ア. 思っていた    イ. 思っていなかった
- 5-2: この時のごんの気持ちを、この時点で兵十は知ることができましたか。
- ア. 知ることができた    イ. 知ることができなかった
- 問6: 3枚目2段44行目~49行目「そのとき兵十は、~いたずらをしに来たな」の文章を参照し、次の問いについて正しいと思う記号に○印をつけなさい。
- ごんがうなぎを盗んだことを兵十は知ることができましたか。
- ア. 知ることができた    イ. 知ることができなかった
- 問7: 1枚目1段11行目~14行目「ごんはひとりぼっちの子ぎつねで、~」および2枚目1段28行目~29行目「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か」の文章を参照し、次の問いについて正しいと思う記号に○印をつけなさい。
- 「ごんがひとりぼっちのきつねだ」と兵十は知ることができましたか。
- ア. 知ることができた    イ. 知ることができなかった
- 問8: 2枚目1段25行目~2段6行目「ごんは、のび上がって見ました。~」の文章を参照し、次の間について正しいと思う答の記号に○印をつけなさい。
- 8-1: ごんは兵十の母親が死んでしまったことを知ることができましたか。
- ア. 知ることができた    イ. 知ることができなかった
- 8-2: 「兵十の母親の死をこの時ごんは知ることができた。あるいはできなかった」といういずれかの事実を、この時点で兵十は知ることができましたか。
- ア. 知ることができた    イ. 知ることができなかった

(註) 下線部は正答を示す。

表3 調査1「気持ちの伝わり」質問の評定結果

		6	5	4	3	2	1	平均
いわしで償い	1回目	2人	5人	3人	4人	1人	1人	4.00
	2回目	2人	2人	8人	1人	2人	1人	3.88
くりで償い	1回目	0人	1人	2人	6人	5人	2人	2.69
	2回目	0人	1人	3人	4人	6人	2人	2.69
兵十も一人ぼっち	1回目	2人	3人	3人	4人	4人	0人	3.69
	2回目	3人	4人	3人	5人	0人	1人	4.13

(註) 1…非常によく伝わった, 2…かなり伝わった, 3…やや伝わった, 4…あまり伝わらなかった, 5…ほとんど伝わらなかった, 6…全く伝わらなかった

表4 1回目から2回目の評定の変化(調査1)

	+	=	-
いわしで償い	2人	8人	6人
くりで償い	5人	5人	6人
兵十も一人ぼっち	6人	8人	2人

(註)〔+〕…「伝わらない」方向への変化

〔=〕…1回目と2回目の評定に変化なし

〔-〕…「伝わる」方向への変化

表5 「事実確認」質問の結果(調査1)

	問1-1	問1-2	問2-1	問2-2	問2-3	問3-1	問3-2	問4-1	問4-2	問4-3
正答	16人	16人	16人	16人	16人	15人	16人	16人	16人	16人
誤答	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	問5-1	問5-2	問6	問7	問8-1	問8-2				
正答	14人	16人	14人	15人	16人	16人				
誤答	2人	0人	2人	1人	0人	0人				

### Ⅲ 調査 2

#### 1. 目的

調査1では、「事実確認」質問をすることによって文章中の事実を吟味させた。事実を吟味する方法は、事実を確認をする以外にもいろいろある。実験者が示した事実についてそれが事実かどうか確認するという方法よりも、被験者自身で事実を探すほうが有効かもしれない。自分で事実を探そうと試み、「伝わった」とする証拠のないこと確認すれば、「伝わらなかった」と納得する可能性がある。このことを確かめるために調査2が行なわれた。

#### 2. 方法

##### (1) 被験者

被験者は茨城県内の私立I大学生生活科学部の学生17人であり、調査1の被験者と重複しない。このうち16人はこの教材を知っている。

##### (2) 調査の概要

調査の方法は調査1と同様（図2参照）。

##### (3) 質問内容

質問冊子は 第2, 3頁目の「事実確認」質問のみが調査1と異なる。質問冊子の内容を表6に示す。

##### (4) 仮説

第2頁目で「気持ちが伝わったとする」証拠を文章の中から探すことができないために、誤っ

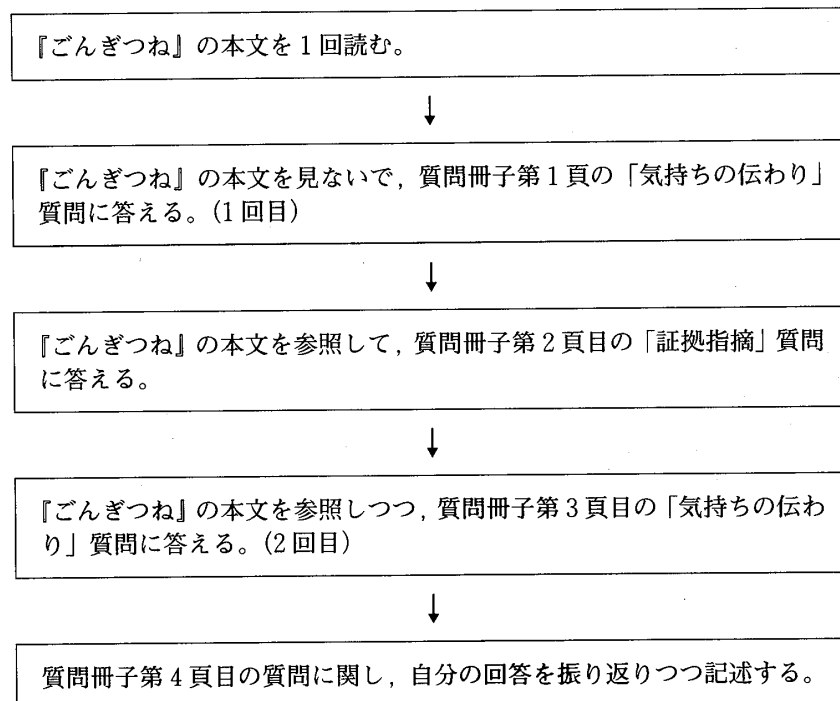


図2 調査2の概略

表6 「証拠指摘」質問の内容(調査2の質問冊子2項目)

前ページの質問についての回答を見ながら、次の問に答えなさい。

**問題A:** 前ページの質問(1)で①, ②, ③を選択した人は、本文を参照して次の問に答えなさい。④, ⑤, ⑥を選択した人は、問題Bに進んでください。

「いわしを持って行ってつぐないたい」という気持ちが伝わったと回答したのは、どの文章、場面にもとづいているのですか。○ページ○行目あたりという程度で結構ですから、その文章、場면을指示してください。見つからない場合は「なかった」と書いてください。

**問題B:** 前ページの質問(2)で①, ②, ③を選択した人は、本文を参照して次の問いに答えなさい。④, ⑤, ⑥を選択した人は、問題Cに進んでください。

「くりを持って行ってつぐないたい」という気持ちが伝わったと回答したのは、どの文章、場面にもとづいているのですか。○ページ○行目あたりという程度で結構ですから、その文章、場면을指示してください。見つからない場合は「なかった」と書いてください。

**問題C:** 前ページの質問(3)で①, ②, ③を選択した人は、本文を参照して次の問いに答えなさい。④, ⑤, ⑥を選択した人は、次のページに進んでください。

「兵十が自分と同じひとりぼっちになってしまったなあ」と思っている気持ちが伝わったと回答したのは、どの文章、場面にもとづいているのですか。○ページ○行目あたりという程度で結構ですから、その文章、場면을指示してください。見つからない場合は「なかった」と書いてください。

た読み取りは修正されるだろう。したがって3頁目の「気持ちの伝わり」質問に対しては、第1頁での場合よりも「ごんの気持ちは伝わらなかった」とする答が目立って多くなるであろう。

### 3. 結果

#### [1] 「気持ちの伝わり」質問の結果

第1頁と第3頁で尋ねた「気持ちの伝わり」質問の反応分布は表7の通りであった。「非常によく伝わった」に1点～「全く伝わらなかった」に6点を与えたときの平均点もあわせて示した。

問いごとに対応のある平均値の差の検定を行なった結果、いずれの問いにおいても有意な差が認められなかった。誤った読み取りは改善されていないことがわかる。

1回目から2回目への6段階の評定に関し、「伝わらない」方向への変化があった者を「+」、評定の変わらなかった者を「=」、「伝わる」方向への変化を示した者を「-」として結果を見ると表8のようになる。いずれの問いでも、「+」方向(伝わらない方向)に変化した者が、「-」方向(伝わる方向)に変化した者より多い。しかし、サインテストの結果、いずれの質問においても有意差は見られなかった。仮説は支持されなかった。

#### [2] 「証拠指摘」質問の結果

「証拠指摘」質問の結果を表9に示す。問題Bを除き、大半が正答できている。仮説が支持されなかったのは「証拠指摘」質問ができなかったからではないことがわかる。ただ、意外なことに問題Bでは、11人もが、「くりを持って行ってつぐないたい」という気持ちが



表7 調査2「気持ちの伝わり」質問の評定結果

		6	5	4	3	2	1	平均
いわしで償い	1回目	4人	5人	0人	7人	1人	0人	4.24
	2回目	5人	4人	5人	3人	0人	0人	4.65
くりで償い	1回目	3人	1人	1人	4人	4人	4人	3.00
	2回目	2人	1人	4人	4人	3人	3人	3.18
兵十も一人ぼっち	1回目	3人	3人	4人	4人	1人	2人	3.82
	2回目	3人	2人	7人	3人	1人	1人	4.00

(註) 1…非常によく伝わった, 2…かなり伝わった, 3…やや伝わった, 4…あまり伝わらなかった, 5…ほとんど伝わらなかった, 6…全く伝わらなかった

表8 1回目から2回目の評定の変化(調査2)

	+	=	-
いわしで償い	7人	7人	3人
くりで償い	5人	9人	3人
兵十も一人ぼっち	6人	7人	4人

(註) [+] …「伝わらない」方向への変化  
[=] …1回目と2回目の評定に変化なし  
[-] …「伝わる」方向への変化

表9 「証拠指摘」質問の結果(調査2)

	問題A	問題B	問題C
なかったとの回答	15人	6人	14人
文章・場面を指摘	2人	11人	3人

伝わったとする文章・場面を指摘している。その中で5人は、次に示す作品の最後の場面を挙げている。

「ごん、お前だったのか、いつも、くりをくれたのは。」

ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。

兵十は、火縄銃をバタリと取り落としました。

## Ⅳ 調査 3

### 1. 目的

「証拠指摘」質問と「事実確認」質問を合わせて行うことにより、誤った読み取りがどの程度修正されるか調べる。

### 2. 方法

#### (1) 被験者

被験者は茨城県内の私立 I 大学生生活科学部の学生 17 人であり、調査 1 と調査 2 の被験者と重複しない。このうち 15 人はこの教材を知っている。

#### (2) 調査の概要

調査の方法は調査 1 と同様 (図 3 参照)

#### (3) 質問内容

質問冊子は 第 2～4 頁目の質問のみが調査 1, 調査 2 と異なり, 調査 1 の「事実確認」質問と調査 2 の「証拠指摘」質問の両方が記載されている。

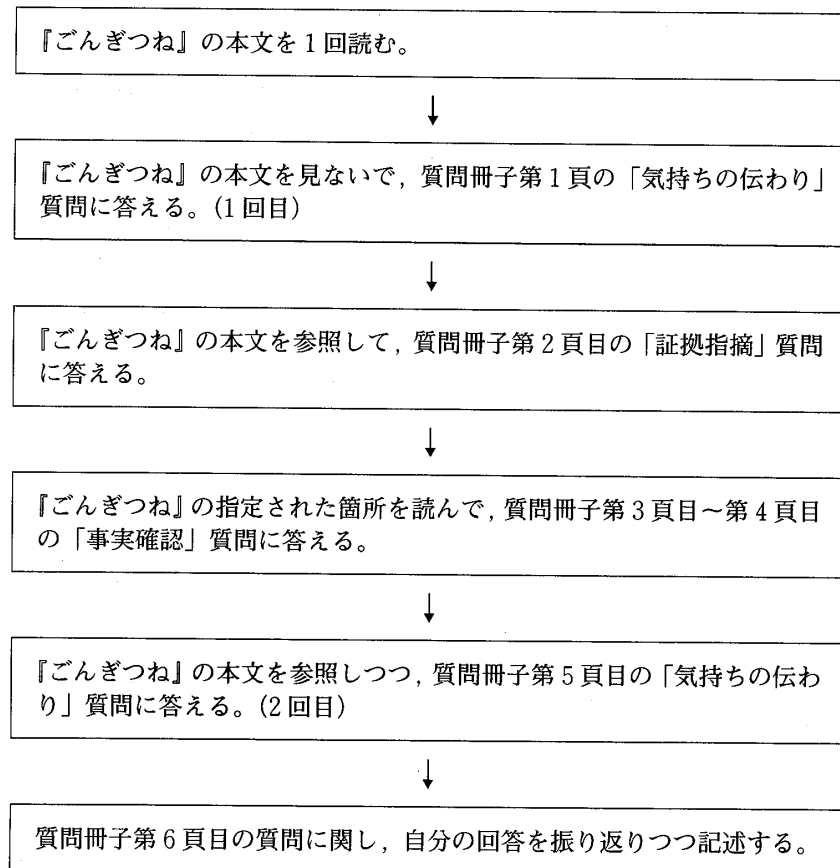


図3 調査3の概略

#### (4) 仮説

第2頁目の「証拠指摘」質問および3～4頁目の「事実確認」質問に答えることにより、上記の誤った読み取りは修正されるだろう。したがって5頁目の「気持ちの伝わり」質問に対しては、第1頁目の場合よりも「ごんのお持ちは伝わらなかった」とする答が目立って多くなるであろう。

### 3. 結果

#### [1]「気持ちの伝わり」質問の結果

第1頁と第5頁で尋ねた「気持ちの伝わり」質問の反応分布は表10の通りであった。「非常によく伝わった」に1点～「全く伝わらなかった」に6点を与えたときの平均点もあわせて示した。問いごとに対応のある平均値の差の検定を行なった結果、いずれの問いにおいても有意な差が認められなかった。誤った読み取りは改善されていないことがわかる。

1回目から2回目への6段階の評定に関し、「伝わらない」方向への変化があった者を「+」、評定の変わらなかった者を「=」、「伝わる」方向への変化を示した者を「-」として結果を見ると表11のようになる。サインテストの結果、いずれの質問においても有意差は見られなかった。仮説は支持されなかった。

#### [2]「証拠指摘」質問および「事実確認」質問の結果

「証拠指摘」質問の結果を表12、「事実確認」質問の結果を表13に示す。「証拠指摘」質

表10 「気持ちの伝わり」質問の評定結果（調査3）

		6	5	4	3	2	1	平均
いわしで償い	1回目	5人	4人	1人	4人	3人	0人	4.24
	2回目	5人	5人	0人	3人	3人	1人	4.18
くりで償い	1回目	1人	1人	2人	5人	5人	3人	2.76
	2回目	3人	2人	2人	3人	4人	3人	3.29
兵十も一人ぼっち	1回目	2人	3人	3人	4人	3人	2人	3.47
	2回目	5人	3人	2人	3人	2人	2人	4.00

(註) 1…非常によく伝わった, 2…かなり伝わった, 3…やや伝わった, 4…あまり伝わらなかった, 5…ほとんど伝わらなかった, 6…全く伝わらなかった

表11 1回目から2回目の評定の変化（調査3）

	+	=	-
いわしで償い	3人	10人	4人
くりで償い	5人	9人	3人
兵十も一人ぼっち	6人	8人	3人

(註) [+ ] …「伝わらない」方向への変化  
[ = ] …1回目と2回目の評定に変化なし  
[ - ] …「伝わる」方向への変化

表 12 「証拠指摘」質問の結果（調査 3）

	問題 A	問題 B	問題 C
なかったとの回答	11 人	5 人	10 人
文章・場面を指摘	6 人	12 人	7 人

表 13 「事実確認」質問の結果（調査 3）

	問 1-1	問 1-2	問 2-1	問 2-2	問 2-3	問 3-1	問 3-2	問 4-1	問 4-2	問 4-3
正答	17 人	16 人	17 人	17 人	17 人	16 人	17 人	17 人	17 人	17 人
誤答	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	問 5-1	問 5-2	問 6	問 7	問 8-1	問 8-2				
正答	16 人	17 人	16 人	14 人	17 人	15 人				
誤答	1 人	0 人	1 人	3 人	0 人	2 人				

問の結果は、問題 B を除き多くの者が正答している。問題 B では、12 人もが、「くりを持って行ってつぐないたい」という気持ちが伝わったとする文章・場面を指摘している。その中で 4 人は、調査 2 と同様に作品の最後の場面を挙げている。また、「事実確認」質問については、大半が正答できており、仮説が支持されなかったのは「証拠指摘」質問や「事実確認」質問ができなかったからではないことがわかる。全体として、調査 1、調査 2 の結果とほぼ同様である。

## V 全体考察

調査 1 から調査 3 まで、いずれの仮説も支持されなかった。立木・伏見（2003）が行った調査の結果と同様、事実を吟味するという方法によっては、誤った読み取りは改善されないのである。この理由は、すでに前回の研究において指摘したように、「気持ちが通じ合える」という認知的枠組の影響が強いことによるものであろう。

被験者は「気持ちの伝わり」質問に関する 2 回の評定を振り返って、最後に感想を書いた。1 回目の評定に比べ 2 回目の評定において、ごんの気持ちがより伝わったと評定を変化させた被験者は、自らの評定についてたとえば以下のような感想を書いている。

- ・ 1 回目の質問では文章を読んだだけで漠然と質問に答えていたが、他の質問（事実確認質問）に答えているうちに、ごんの気持ちは最後に撃たれた時まで兵十に伝わらないと思うと、切なくて伝わってほしいという気持ちで質問には「かなり伝わった」と記したと思う。（調査 1 の被験者）
- ・ アンケート（筆者註：事実確認質問のこと）を進めるうちに、この物語をさらに整理し、ごんと兵十の心情を深く読み取れるようになったためだと考えられる。（調査 3 の被験者）
- ・ ごんの後悔した気持ちや一人というさびしさ、つぐないたいという気持ちのところを

ふたたび振り返って質問され、それと同時に兵十がごんのその気持ちを最後までわからないでいたという悲しさを強く持ち、再度「ごんの気持ちはどのように兵十に伝わったのか」と聞かれ、変化したのだと思う。(調査3の被験者)

被験者のこれらの記述から、ごんの気持ちが兵十に伝わってほしいと考えているのが見て取れる。ごんの気持ちに添って読み取りを進めているのである。このような認知的枠組みを持つために、事実の吟味だけによっては読み取りは修正されないのである。このことは、事実を吟味する回数を増やすという修正方法の限界を示している。

最後に、「証拠指摘」質問において、証拠を指摘した者の文章理解について考察する。最後の場面で、「ごん、お前だったのか、いつも、くりをくれたのは。」と兵十が言った。この場面で、「いわしを持って行って償いたい」、「くりを持って行ってつぐないたい」などのようなごん気持が兵十に伝わったと答えた者に対し、その証拠となる文章、場面を指摘させるとするのが「証拠指摘」質問である。この質問の意図は、調査2の目的のところでも述べたように、ごんの気持が「伝わった」とする証拠のないこと確認させることによって、「伝わらなかった」と納得させるためである。しかし、予想に反し何人かの者が証拠が「ある」と答えている。特に、質問Bの「くりを持って行ってつぐないたい」という気持が伝わったのは、どの文章、場面にもとづいているのですかという質問に対しては、調査2、調査3合わせて9名の者が最後の場面を挙げている。これらの被験者は、「くりをくれたのがごんである」ということがわかるその場面で、ごんの「つぐない」の気持が兵十に伝わったと考えている。これは、予想しなかった読み取りである。このことは、くりをくれたという事実と、気持が伝わったという解釈を区別することの難しさを示唆している。

以上のような点を総合的に検討し、事実を吟味する方法以外の修正を再検討する必要がある。

## 註

- 1) 前回に行なった調査と同一の調査にするために、ダミーの問題を1問加えてある。今回の調査ではこの問いを分析の対象からはずす。

## 文 献

- 石黒広昭 (1985) テキストの読みに対する視点の役割 日本教育心理学会第27回総会発表論文集, 622-623.  
小林好和・小島康次 (1986) 授業場面における物語り理解の構造2 日本教育心理学会第28回総会発表論文集, 632-633.  
小林好和・佐藤公治・小島康次 (1987) 授業場面における物語り理解過程に関する研究(その2) 日本教育心理学会第29回総会発表論文集, 694-695.  
小島康次・小林好和 (1986) 授業場面における物語り理解の構造1 日本教育心理学会第28回総会発表論文集, 630-631.  
麻柄啓一 (1994) 文学作品の読み誤りとその修正について 読書科学, 38, 5-12.  
三好修一郎 (1999) 新美南吉「ごん狐」の読みと教材性 国語科教育, 46, 9-16.  
新美南吉 (1988) ごんぎつね 石森延男他. 小学校国語 4下/はばたき 光村図書, 54-77.  
宮崎清孝 (1987) 視点の働き 宮崎清孝・上野直樹. 認知科学選書1・視点 東京大学出版会, 101-175.

- 西林克彦 (1990) スキーマ提示による文章理解の促進 日本教育心理学会第 32 回総会発表論文集, 435.
- 西林克彦 (1991) 文学教材で何を指導すべきか—確かめられることと確かめられないこと— 宮城教育大学紀要, 26-2, 117-125.
- 鈴木高士 (1996) 既有知識と文章理解 鈴木宏昭・鈴木高士・村山功・杉本卓. 教科理解の認知心理学 新曜社, 153-220.
- 高森邦明 (1975) 児童文学教材の研究 鳩の森書房, 122-123.
- 高橋善彦 (1978) 「ごんぎつね」(四年) の実践 群馬実践国語研究会. 実践国語研究双書 1・言語力をつける読みの授業 明治図書, 116-118.
- 立木徹・伏見陽児 (2003) 文学作品の誤った読み取りとその修正 読書科学 47-2, 50-59.
- 渡部弘純 (1991) 児童文学作品の「感情」の読み取り 日本教育心理学会第 33 回総会発表論文集, 591-592.
- 萬屋秀雄 (1983) 小学四年・ごんぎつね(新美南吉) 浜本純逸他編. 作品別文学教育実践史事典 明治図書.

# Correcting the Misreading of a Literary Work: The Effects of Questions on the Checking of the Truth of Facts and on Searching for Evidence

Toru Tatsuki, Yohji Fushimi

Nankichi Niimi's literary masterpiece, *Gongitsune*, serves as standard educational material for the teaching of language within many Japanese primary schools. The protagonist is a little fox named "Gon" who lives on the outskirts of a village and who plays different kinds of pranks on the villagers. One day Gon releases fish from a net set by "Hyoju", a villager, and steals Hyoju's eels. After Hyoju's mother passes away, Gon realizes Hyoju caught the eels for his ailing mother, subsequently regrets stealing the eels, and then returns under cover to Hyoju's house with chestnuts and mushrooms for Hyoju in order to atone for his misdeed. When Gon sneaks into Hyoju's house however, Hyoju, misunderstanding Gon's intent, shoots Gon. Finding the chestnuts soon after, Hyoju realizes Gon's gifts were for him, and the narrative closes with Hyoju exclaiming, "Gon, was it you who always brought chestnuts for me?"

Not a few readers think that Hyoju is able to understand Gon's intention of compensation for depriving Hyoju's mother of the eels. Read properly, it is clear that Hyoju does not understand Gon's intention and feelings, but the aforementioned misunderstanding nevertheless occurs. The purpose of this study was to reconfirm the erroneous interpretation by university students and attempt to correct the misinterpretation. To that end, readers needed to be made aware that there is no narrative evidence supporting Hyoju's understanding of Gon's feelings and intentions.

Investigators conducted three experiments. A total of fifty university students were the subjects for 3 experiments: 16 students participated in Experiment I; 17 students participated in each of Experiment II and Experiment III. A question booklet was distributed to every subject after an examiner had read aloud the story while subjects simultaneously read the story silently to themselves. On page 1 of the question booklet, subjects were asked to answer 3 questions, without referring to the text, about whether or not Gon's feelings and intentions were understood by Hyoju, ranking their responses by six degrees of understanding: 1 = very well understood; 6 = not understood at all. The next page of the question booklet was different for each of the three experiments. In Experiment I, subjects were then assigned specific passages of the story to read and answered 8 questions ('yes' or 'no') to confirm what was written in the story. In Experiment 2, subjects were asked to search for evidence which showed the fact that Gon's feelings and intentions were understood by Hyoju. In Experiment 3, subjects answered 8 questions as in

Experiment 1, and searched for evidence as in Experiment 2. Next, subjects were permitted to refer the text, and they again answered the same questions as on page 1, regarding Hyoju's understanding of Gon's feelings and intentions. Finally, subjects were told that they had answered the same questions twice, and that if their responses had changed, subjects were asked to describe, in their own words, how and why their responses had changed.

Results suggested, however, that although many students correctly answered the 8 plot confirmation questions on page 2 of the question booklet, but could not find evidence which showed the fact that Gon's feelings and intentions were understood by Hyoju, they still answered that Hyoju understood Gon's compensatory intention and his feelings. Even with evidence to the contrary, the subjects' erroneous interpretation of Gongitsune did not improve and was not corrected. Investigators determined subjects' misreading of the text to be the result of readers both having a strong identification with, and a sympathetic affinity for, the protagonist, Gon.